（別紙様式２－２）

「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

都道府県・指定都市名（石川県）

１．調査研究のテーマ、概要

（１）調査研究のテーマ

豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざして

（２）調査研究のテーマを設定した目的

近年、いじめや虐待など、「子どもの人権」に関する問題が全国的に関心を集めているが、本県においても児童生徒間のトラブルが少なからず存在しており、児童生徒が安心して生活し、学べる、人権が尊重された環境づくりの必要性が高まっている。また、学校教育における児童生徒の学びは若い世代の意識の向上につながると共に、家庭や地域にも波及することが期待される。

このことから、学校における全ての教育活動全般を通じて、人権や人権擁護に関する知的理解と、それらを直感的に感受し、共感的に受けとめる感性や人権感覚の涵養を基盤とした豊かな人間関係が築かれた中で、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力など、児童生徒の様々な資質や能力の育成をめざす。

（３）調査研究の概要

人権尊重の視点に立ち、児童生徒一人一人が尊重されるとともに、互いのよさや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざした学校・学級づくり、授業づくりについて研究する。また、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの推進等、組織的に人権教育を推進するための校内推進体制の確立と、人権教育に係る教職員の資質及び指導力の向上を図るための研修活動についても研究を進める。本研究指定校を、本県の人権教育推進の核と位置付け、実践事例や研究成果を県内に広めることによって人権教育の一層の充実を図る。

２．調査研究の体制・内容等

（１）研究指定校の概要

学校名	川北町立川北中学校
これまでの研究指定等の状況	H26・27 年度　石川県教育委員会指定　いしかわ道徳教育推進事業 H27・28・29 年度　石川県教育委員会指定　学びの組織的実践推進事業 H30・R 元年度　石川県教育委員会指定　英語教育強化拠点地域事業
学級数	９学級（うち特別支援学級：１学級）
児童生徒数	全生徒数：２２７名（令和６年１月５日現在）
ＵＲＬ	https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/kawakj/

（２）指定理由

川北町立川北中学校は、川北町唯一の中学校である。また、川北町には３つの小学校があり、中学校と小学校の連携事業として、各校の生徒会と児童会の連携や教師間の授業参観、研修会が盛んに行われている。そのため、小学校間や小学校と中学校の間の結びつきは強い。川北中学校は素直な生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。しかし、人との関わりの中で人間関係を築くことが苦手で、周りの目を気にしすぎて行動が萎縮したり、小学校時代にできあがった人間関係をひきずったりしてしまう生徒も見られる。また、地域の特徴として多様な他者と接する機会が少ない状況にある。

このような現状の中、研究校に指定することでより組織的な人権教育を推進し、自分や他者の価値を尊重しようとする意欲・態度や、多様性に対する開かれた心を育む取組の実際を広く普及できるものと期待する。

３．取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「２．事業の内容」を必ず確認すること。

①子供	◎
②女性	〇
③高齢者	〇
④障害者	〇
⑤同和問題	〇
⑥アイヌの人々	〇
⑦外国人	
⑧-１HIV 感染者等	
⑧-２ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	〇
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	〇
⑭その他（戦争と差別）	〇

４．調査研究の内容等

（１）調査研究の内容

表１は、令和４年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査の本校と石川県の結果の抜粋である。

表１	質問内容	選択肢	回答（%）	
			本校	石川県
①	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	当てはまる	78.2	86.1
		どちらかといえば、当てはまる	18.4	11.3
②	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	当てはまる	20.7	31.1
		どちらかといえば、当てはまる	66.7	51.3

①では肯定的回答の割合は、本校は 96.6%、石川県は 97.4%であり、本校の方が若干低い。また、②では、肯定的回答の割合は、本校は 87.4%、石川県は 82.4%であり、本校の方が高い。ただし、①、②ともに「当てはまる」の回答の割合は、本校の方が低いため他の人の人権を意識することが十分に高まっていないと考えられる。

表２は、令和４年度に実施した全校生徒アンケートと令和４年度全国学力・学習状況調査質問紙調査の石川県の結果の抜粋である。

表２	質問内容	選択肢	回答（%）	
			本校	石川県
③	自分には、よいところがあると思う	当てはまる	36.0	35.3
		どちらかといえば、当てはまる	37.4	43.4
④	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	当てはまる	50.0	36.1
		どちらかといえば、当てはまる	40.7	49.8
⑤	困りごとがあるときに、先生や学校にいる大人に相談できる	当てはまる	53.3	31.2
		どちらかといえば、当てはまる	36.4	36.4

③では、肯定的回答の割合は、本校は 73.4%、石川県は 78.7%であり、人権感覚の一つである「自己に対する肯定的態度」の高まりが十分でないと考えられる。一方で、④、⑤では、肯

定的回答の割合は本校の方が石川県よりも高く、生徒と教職員の共感的な人間関係は構築されているといえる。

このような生徒の現状をふまえ、自他の人権感覚の育成を土台とした学校づくりをめざして本調査研究を行う。その際には、生徒指導提要（文部科学省 令和４年 12 月）にある生徒指導の実践上の４つの視点も重視する。特に、その中の「安全・安心な風土」については、人権教育を充実させることで、生徒自らがつくり上げることができると考える。これまで本校が実践してきた取組を、人権尊重の観点から見直し、総合的にバランスよく推進していくことで、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる人権感覚」を養うことができたり、自己肯定感を高めたりできるという仮説を立てた。

この仮説に基づき、「学習活動づくり」、「人間関係づくり」及び「環境づくり」が一体となった取組を全教職員で推進していく。「学習活動づくり」では、生徒主体の授業づくりをめざし、生徒一人一人の可能性を引き出したり、生徒が主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定できるような自己決定の場を大切にしたりする。「人間関係づくり」では、互いのよさや可能性を認め合える関係づくりをめざし、自他の個性を尊重する態度や、相手の立場に立って考え、行動できる共感的な人間関係を育成する。「環境づくり」では、安心して過ごせる学級・学校づくりをめざし、生徒一人一人が、個性的な存在として尊重され、安全かつ安心して教育を受けられるように配慮する。その上で、生徒の人権感覚の涵養につなげていく。

（２）実施方法

人権教育が育成をめざす資質・能力の育成に向けて、「知識的側面」、「価値的・態度的側面」及び「技能的側面」を総合的に位置付けながら以下の取組を実施した。

① 人権尊重の視点に立った「学習活動づくり」の推進

ア　生徒一人一人の可能性を引き出す授業づくりの推進

提案授業や授業交流、授業研究を通して、教員のめざす授業像の共有化を図った。生徒一人一人が「わかった！できた！」と感じられるような授業づくりに向け、教科部会等での単元構想を大切にし、どのような場面でどのような活動を行えばよいか等の学習形態の工夫や、考えや意見を交流する場の設定等、話し合いを重ねた。

イ　自己決定の場を大切にした生徒主体の授業への改善

生徒会が中心となって授業に関する生徒集会を行い、自分たちで創り上げる授業の実現のため、めざす授業像を全校生徒で共有した。川北町の小中学校全体で取り組んでいる「かわきた授業スタイル」を軸に、【わ：わかった！できた！に向けて伝え合おう】の部分を具体的に示し、生徒自身が主体的に授業に取り組む姿勢の育成をめざした。６月と１月には、生徒一人一人が自らの授業をふり返り、めざす授業像実現への課題や取り組み方を全員で考える生徒集会を行った。

ウ　総合的な学習の時間において、教科等横断的な視点を取り入れた「課題研究」の取組

２年生の課題研究では社会科と連携し「人権について考える」というテーマの下、「子供、高齢者、同和問題、アイヌの人々」について学習した。特にアイヌの人々については、北海道立北方民族博物館の学芸員の方にオンライン授業を行ってもらった。事前に十分な打ち合わせをし、アイヌの歴史や差別の実態について映像資料等を用いて分かりやすく講演していただいた。

② 人権尊重の視点に立った「人間関係づくり」の推進

ア　生徒指導の４つの視点に立った組織的な教育活動の充実

研究主題・副主題の実現に向け、授業の中での具体的な生徒の姿について教科の垣根を越えて意見を出し合った。その意見をもとに、人権尊重の視点に立った人間関係づくりのポイントを取り入れた「教師の手立て」を作成し、1 時間の授業の中でどのように生徒と関わるか、共通理解を図り、全ての教科で実践を重ねた。

イ　肯定的評価やコミュニケーションスキルを高める場の充実

互いのよさを認め合い、温かい人間関係の育成をめざして、学級終礼時に当番がその日の出来事を振り返り、心が温かくなったエピソード等を発表する「咲（えみ）エピソード」を生徒会主導で行い、全校掲示板で共有してきた。

③　人権尊重の視点に立った「環境づくり」の推進

ア　人権に関する掲示やコーナーの充実

人権掲示板を作成し、各学年の人権に関する授業や全校集会、人権講話等について学びの足跡を残した。また、各学年の教室前や図書室前には人権図書コーナーを設置した。いつでも学びを振り返ったり他学年の活動を見たり、気軽に本を手に取って見ることができるようにしたりし、生徒が人権課題について触れる機会を増やした。

（３）検証・評価・改善・普及

〔検証・評価〕

生徒や教職員の変容をアンケートで検証した。

	質問内容【生徒アンケート】	4月回答（%）		12月回答（%）	
		当てはまる	肯定的回答	当てはまる	肯定的回答
1	自分には、よいところがあると思う【価値的・態度的側面】	48.8	85.6	50.0	86.2
2	自分と同じように、相手のことを大切にしている【技能的側面】	60.2	93.6	63.2	95.9
3	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている【技能的側面】	51.6	92.2	57.6	94.8
4	思いやりを持った行動ができている【技能的側面】	56.4	95.2	61.2	95.9
5	学校が楽しいと思う【価値的側面】	50.3	91.3	54.6	92.6

	質問内容【教職員アンケート】	4月回答（%）		12月回答（%）	
		当てはまる	肯定的回答	当てはまる	肯定的回答
1	人権教育の指導を進めるにあたり、協働的・参加的な学習を取り入れる、体験活動や交流活動を多様に組み入れるなど、指導方法の工夫を行っている	17.6	76.4	25.0	87.7
2	集団活動において、生徒が、自己を生かすことのできる場を適切に設けている	17.6	94.1	18.8	93.8
3	集団活動において、生徒が、互いのよさを認め合い協力する機会を適切に設けている	23.5	94.1	25.0	93.8
4	積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支え合う人間関係づくりを援助している	11.8	76.5	11.8	94.2
5	生徒の不安や悩みを受け止める体制ができている	27.8	94.5	47.1	100.0

① 人権尊重の視点に立った「学習活動づくり」の推進

「自分と同じように、相手のことを大切にしている【技能的側面】」という項目では、生徒の肯定的回答が 2.3%増えた。また、教職員アンケートの「人権教育の指導を進めるにあたり、協働的・参加的な学習を取り入れる、体験活動や交流活動を多様に組み入れるなど、指導方法の工夫を行っている」の項目では、肯定的回答が 76.4%から 87.7%へ向上した。授業改善の取組において、生徒一人一人を大切にし、生徒主体の授業をめざし、どの教科においても実践してきた成果だといえる。全教職員で共通理解・共通実践することを大切にしてきたことで、教職員の授業改善の意識の向上も図ることができた。

② 人権尊重の視点に立った「人間関係づくり」の推進

「自分には、よいところがあると思う【価値的・態度的側面】」という「自己に対する肯定的態度」の項目は、本校の実態として向上をめざしてきたものである。「当てはまる」と回答した生徒が 1.2%増えたことは、取組がめざす生徒像へとつながっていたといえる。また、教職員アンケートの「積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支え合う人間関係づくりを援助している」という項目では、肯定的回答が 76.5%から 94.2%と大きく向上した。授業はもちろん、様々な活動を進める中で、人権尊重の視点に立った人間関係づくりのポイントを教職員は意識してきた。その結果として、自他を尊重し合う学校全体の雰囲気づくりにつながったと考えられる。

③ 人権尊重の視点に立った「環境づくり」の推進

生徒のふりかえり等では、「同和問題が、自分たちにとって身近なことだと考えるようになっ

た」「アイヌの歴史を知り、差別をなくすために自分たちにできることをもっと考えたい」等、人権の【知識的側面】の意識の向上があった。各教室前や図書室前の人権図書コーナーで、図書を手にする生徒の姿も度々見られた。人権課題と関連した授業や活動だけでなく、学校全体で生徒が日常的に人権課題について意識が持てるような掲示や図書等を充実させてきたことが成果を挙げていると考えられる。

〔改善〕

次年度は、異なる意見を受け止めたり、互いのよさを認め合ったり、一人一人が尊重されるとともに、よりよいものへと練り上げていくことが重要である。そのために、単元や授業の中で生徒に委ねる場面づくりを工夫し、能動的な傾聴、適切な自己表現等のコミュニケーションスキルを高める場をさらに充実させていきたい。また、共感的に受けとめたところから、自発的に行動に移すことができる生徒が増えていくような取組になるように改善を図っていきたい。

ふり返る内容を充実させ、次に生かせるように生徒を導く視点で授業改善を進めていくことも必要である。そのために、生徒が自分の学びの過程を蓄積し、成長を確かめられるようにしたり、周りの生徒や教師からのアドバイスを取り入れられるようにしたりする手立てが考えられる。

〔普及〕

基本的人権について考えた全校集会の様子や生徒の感想、外部講師をお迎えしての人権に関わる講演など、本研究の取組等を本校ウェブページ等で発信している。また、川北町の広報で「アンネ・フランク パネル展」「人権講演会」の開催を事前に紹介したところ、地域住民や町内の小学校からの来校もあり、町全体への発信にもつながった。

（４）実施状況

＜都道府県・指定都市教育委員会＞

時　期	内　容	備　考
５～９月	指導主事による研究指定校訪問指導	訪問先：各研究指定校、人数：３７人 対象：各研究指定校教職員
１１月２１日	野々市市立御園小学校研究発表会	参加者数：８５人 対象：県内小中高等学校教職員、県・市町教育委員会
１月下旬	人権教育推進委員会の開催	人数：１６人　対象：学識経験者、教員、社会教育団体代表
３月上旬	人権教育指導資料の印刷・配付	４２５０冊　配付先：県内全小・中・高等・特別支援学校、市町教育委員会等

＜研究指定校＞

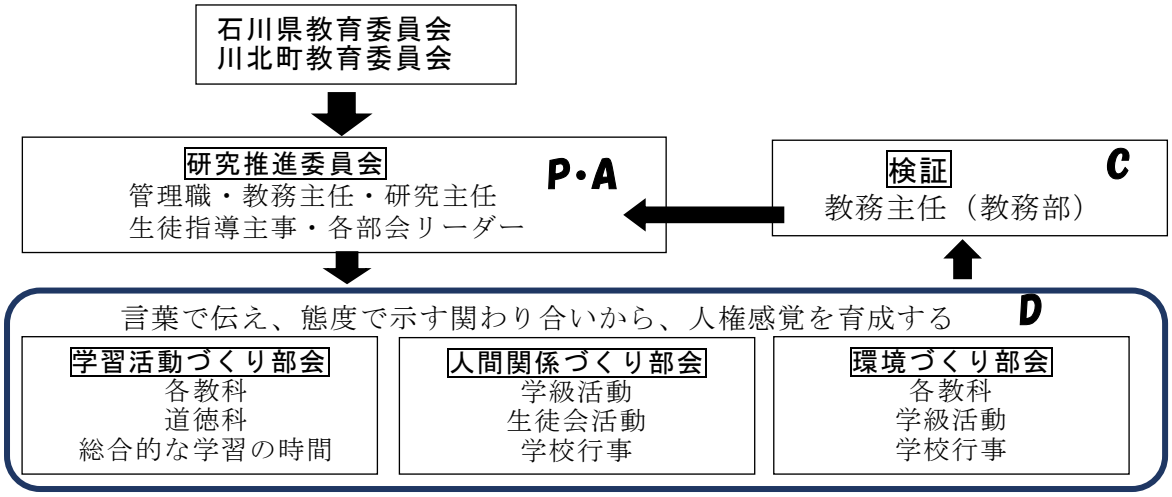
時　期	内　容	備　考
４月	○研究推進委員会 ・人権教育推進に向けた研究全体についての協議 ○アンケート調査の実施 ○第１回校内研修会（各部会で役割分担の確認） ○生徒会 咲（えみ）プロジェクト開始 ○生徒集会における授業オリエンテーション 「めざす授業像の共有化」 ○教育講演会【インターネットによる人権侵害】 ・いじめのない学校づくり	参加者：教職員 対象：全校生徒、教職員 参加者：教職員 参加者：全校生徒、教職員 参加者：全校生徒 参加者：全校生徒、教職員、保護者
５月	○憲法から考える人権 ○第２回校内研修会（講師招聘①）	参加者：全校生徒（各学年） 参加者：教職員、他校教職員
６月	○介護・福祉の仕事の魅力授業【障がい者】 ○生徒集会におけるめざす授業のふり返り 「授業のルール４か条」 ○0JT 研修　若プロ「学級活動」 ○第３回校内研修会（提案授業） ○指導主事要請訪問（第４回校内研修会）	参加者：２年生徒 参加者：全校生徒 参加者：若手教員 参加者：教職員 参加者：教職員
７月	○保育実習（保中連携）【子ども】 ○人権作文 ○研究推進委員会	参加者：３年生徒 参加者：２年生徒 参加者：教職員

	・１学期の反省と２学期の取組についての協議 ○学校評価の実施	参加者：全校生徒、保護者、教職員
８月	○第５回校内研修会（講師招聘②）	参加者：教職員
９月	○修学旅行（平和教育から考える人権） ○計画訪問（第６回校内研修会） ・人権教育を視点においた授業／学級づくり	参加者：３年生 参加者：教職員
１０月	○第７回校内研修会（模擬授業） ○「人権について考える」（地域人材の活用） 【子ども、高齢者、同和問題、アイヌの人々】	参加者：教職員 参加者：２年生徒 （グループごとに）
１１月	○文化祭（生徒会主催、自己開示・他者理解） ○先進校視察 ○思春期講座（地域人材の活用） 【女性、性的指向、性自認】 ○第８回校内研修会（指導主事要請訪問） ○人権講演会、アンネ・フランクパネル展 【戦争と差別】 ○人権擁護委員による道徳授業（２年生）	参加者：全校生徒、教職員 訪問先：先進校（県内、大阪府、神奈川県） 参加者：全校生徒（各学年） 参加者：教職員 参加者：全校生徒、教職員、地域住民、人権擁護委員、校区内小学校 指導者：人権擁護委員
１２月	○第９回校内研修会（講師招聘③） ・授業参観後、助言を含めた講演会 ○人権講演会【同和問題】 ○学校評価の実施 ○研究推進委員会 ・２学期の反省と３学期の取組についての協議	参加者：教職員 参加者：全校生徒、教職員、地域住民 参加者：全校生徒、保護者 参加者：教職員
１月	○課題研究全校発表会（各学年による発表） ○先進校視察 ○生徒集会におけるめざす授業のふり返り 「主体的な授業をめざして」 ○授業交流週間 ・人権教育を視点においた授業／学級づくり	参加者：全校生徒 訪問先：先進校（大阪府） 参加者：全校生徒 参加者：教職員
２月	○第 10 回校内研修会（講師招聘④）	参加者：教職員
３月	○研究推進委員会 ・次年度の取組についての協議	参加者：教職員

（５）人権教育に係る年間指導計画

別紙参照

５．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



６．文部科学省との連絡担当者

所属・役職	石川県教育委員会事務局学校指導課　指導主事
氏　　名	西原　範泰
電話番号	076-225-1827
ＦＡＸ番号	076-225-1832
E-mail アドレス	代表：gakusi@pref.ishikawa.lg.jp 担当：n-nishihara@pref.ishikawa.lg.jp